



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2158号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 佐野 宏三 幹事 前田 博利



広重版画より 三島 朝霧

第2222回例会

2018.9.27(土)

司 会 赤池克斗君

ロータリーソング 「それでこそロータリー」
指揮 花房孝光君

会長挨拶

副会長 原 久一君

皆さんこんにちは、稲刈りのシーズンを迎えました。大型の台風24号が発生し日本本土に上陸が懸念されています。今年は、1958年の甚大な被害をもたらした狩野川台風から60年が経ちます。1,000人の死者と行方不明者が犠牲になっております。その7年後の1,965年に狩野川放水路が完成、今では、放水路のおかげで安全が確保されています。

平成29年度は、米山梅吉記念館へ170ロータリークラブからの5,000人の方が来館されております。遠方では、沖縄、台湾からの来館者もあり、卓話依頼も増えてきております。今年度は、米山梅吉翁生誕150年、来年度は、記念館設立50周年にあたり準備の機運も盛り上がって参りました。

9月15日(土)に開催された秋季例祭は、150名の方が出席され南は奄美大島(鹿児島RC)からの参加や岡山、大阪、北海道札幌2クラブ、東京ロータリー会長、RI第2620地区ガバナー星野喜忠様を始め積惟貞公益法人米山梅吉記念館理事長を始め多勢のバスターガバナーのご臨席をいただきました。

講演「伊豆と世界史～150年、米騒動から100年～」

講師 「櫻井 祥(よし)行(ゆき)」氏

芸術や学術を通じ、本県の文化の振興と向上に寄与する個人または、団体の活動を奨励する「静岡県文化奨励賞」受賞。静岡県立韮山高等学校、現校長

アトラクション

演奏 アンサンブルFEP(フェップ)

二胡・歌 遠藤 隆 フルート 外山直子

ピアノ・歌 篠木喜世

「FEP」は、演奏を、遊びを、人生を楽しもうといった意味を持

たせています。演奏ジャンルは、クラシックから演歌、ミュージカル、歌謡曲と幅広く、楽しい演奏と歌のひと時でありました。懇親会では、講師の佐野講師には、質問や意見が殺到、賑やかな雰囲気の中、最後まで退席する人もなく秋季例祭は、成功裏のうちに終了いたしました。

以上、ご報告とご挨拶に代えさせていただきます。

出席報告

	出席総数	出席率	メンバーアップ	修出席正率
前々回	36/43	83.72%	36/43	83.72%
今回	32/38	84.21%	会員総数	46名

欠席者 秋元君、大石君、鈴木(正)君、須田君、橋本君、平出君

スマイルボックス

◆ゴルフ同好会、9月16日(日)に佐野年度第1回目のゴルフコンペを中伊豆グリーンにて、開催しました。優勝須田さん・準優勝鈴木正二さん・3位関本さんでした。次回は10月8日(日)にフジ天城で行います。

幹事報告

幹事 前田博利君

①10月例会の確認

10月4日 通常例会、10月11日 夜間例会(例会日変更)、10月21日 見晴フェスティバル(例会日変更)

②多治見西RC友好クラブの件で、10月8日に多治見西RCの会長、幹事が来島致します。会長、幹事、関本アドバイザーで今後の話を致します。

③苗栗RCのアキさんが本日の9月27日の朝にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り致します。

2018～2019年度
国際ロータリー会長
バリー・ラシン

インスピレーションになろう

卓 話

自己紹介

加藤憲勝君

昭和41年11月22日生まれ。いい夫婦の日に生まれました。現在51才です。三島で生まれ、学生時代以外は殆ど三島で過ごして来ました。父と母は農協に勤めて、そこで母と出会い、結婚して私が生まれました。私は男ばかり3人兄弟の長男です。女房は函南町の出身で、同級です。生まれ年が丙午で、丙午の女房をもらったことになります。学生時代に接点があった訳ではなく、社会に出てから知り合いました。私たちの子供は3人です。長女は大学を卒業して今は社会人、目黒にいます。今年25才で、もうすぐ結婚します。長男は大学3年生、高円寺のアパートに住んでいます。次女は大学2年生で大阪の茨木というところに、これまた一人暮らしをしています。

私は、三島市立徳倉幼稚園を卒園、徳倉小学校に入学しました。6年生の時に北上小が出来て、そちらに移りました。その後、北中学校に進みましたが、ここでも2年生の時に北上中学校が出来て、そちらに移りました。高校は、伊豆中央高校です。小学校時代は野球をやっていましたが、6年生の時の体育の先生に誘われて、バスケットもやることになりまして、中高はバスケットボール部でした。中学校、高校合わせて数回、謹慎処分を受けたりして、あまり素行が良い生徒では無かったと思います。もう、時効です。大丈夫だと思いますが、高校3年生の学園祭の打ち上げで、広小路南通りにあった、「高砂」という居酒屋で同級生数人と一杯やっていたら、先生方も打ち上げで、大勢で来られて、これでもかと絞られた事があります。その時の私の担任の先生が、長女が高校受験する時に校長になっておられて、私の名前は珍しいのできくと覚えているだろうと、気恥ずかしい思いをしました。が、やっぱり先生は覚えていらっしゃると思いました。

大学は、関東学院大学の建築設備工学科に進みました。ここは、水道屋さんの息子とか、空調屋さんの息子とかがほとんどで、専門学校に近い感じがありました。120人くらいの小さな学科でしたが、卒業時は、留年した学生も含めて六十数名だったので、みんな不真面目だったんだなあと思いますし、自分はいくあれで卒業したなあと思います。4回生の時は排水処理のゼミだったので、毎日データ取りに行くのですが、かなり臭い思いをしました。同じ研究室の中に、臭気の除去がテーマの人もいましたが、私は糸状微生物による排水の生物学的処理と言うのがテーマで、アクリル板で小さな排水処理槽をいくつも制作して、空気量を変えたり、温度を変えたり、高分子などの添加剤を加えたりして実験を繰り返す毎日が思い起こされます。PC98という、NECのパソコンと大きなフロッピーディスクが懐かしいです。学生時代はバイクが好きで、当時は、大型のバイクに乗るためには試験場で一発試験に通る必要があり、いわゆる限定解除というのですが、これが、1日に何百人も受けて数名しか合格しなかったりするんですが、好きこそものの上手なれで、合格してカワサキのナナハンに乗ってました。それが原因で、そんな金があるのかと父親の逆鱗に触れまして、仕送りをしばらく止められて大変苦労しました。バイクは確か、55万円だったと思います。あと、思い出深いのは、麻雀仲間の先輩に勧められて、競馬をやったことです。何が思い出深いかというと、「シンボリルドルフ」という無敗の三冠馬で、

非常に強い馬がいて、こいつの単勝にかければ鉄板で儲かるとその先輩が言うので、有り金の殆どを賭けたら、この時だけ「ギャロップダイナ」が来ました。この馬の名前は忘れることができません。学生の時、時代はまさにバブル期でした。マハラジャとか、ジュリアナとか、六本木とか言ってた時です。

卒業は昭和64年、お正月に昭和天皇が崩御され、その年が平成元年になりました。ですから、私は平成元年が社会人一年目です。職に就いたのは、浜松の設備工事会社です。おそらく今も、東海地区では一番大きな会社です。現場監督でした。もともと、水道屋になるのに大学に行く必要があるのか、どうしても行くな専門のところにしろ、と父に言われて行かせてもらったのですから、それ以外の選択肢はなかったわけですが、ゼミの教授の勧めもあり、首都圏で就職して仕事を覚えようと思っていました。しかし、やはり父親の存在は大きく、地元に戻ってきなさいということで、沼津に支店があるその会社にお世話になりました。何年かして、家業に従事することになり、父のもてでやってきたのが今の私の会社です。父が亡くなって6年経ちました。その前年に私は社長になりましたので7年生です。実質、私が殆どの面で運営していましたが、それでも、早く引き受けろと言われながら父の健康状態が悪くなってようやく世代交代をしました。悪いことをしたな、と思っています。父の命日は、いい夫婦の日、私の誕生日で、絶対に忘れられない日です。

弊社は、父が農協に勤めていた頃、ガソリンスタンドや、プロパンガスの事業が始まり、そこで覚えて独立起業したものです。創業、昭和46年、設立昭和53年ですので、創業から47年、設立から40年の会社です。設備工事店なので、水道工事、空調工事が主な仕事です。住宅やマンション、店舗などの給排水設備やエアコン等の取り付けなどが出来ます。公共工事も請け負いますので道路に埋設する口径の大きな水道管や消火栓の取付、学校の給排水設備や空調工事なども施工して来ました。世間の景気に左右されやすい業種です。社員十数名の小さな会社ですので、いつ転覆するかわからない小舟のようなものです。その船頭が私だというのも若干不安です。人手不足も深刻で、これから10年経ったら社員は半分になってしまいますので、採用活動は大きな課題です。しかし、学校を卒業して新卒者が入職しようと思うような職種ではないことも事実で、どうするかといえば、妻子持ちで、生活が掛かっている、手に職を、という人がいないか、いつも目を光らせています。近ごろは、新工法が本当に次々と開発され、どれが良いのか選択を戸惑うほどです。図面や申請書の作成も3次元CADが主流になり、1年前の方法は過去のものだったりします。トレンドも変化しており、エアコンやポンプの省エネ化はもちろん、パイプなどの資材の再生利用、水資源の循環再生、飲料水への鉛溶出の抑制やコントロールが騒がれています。ついて行くのに精一杯です。そんな中でも、もし、大きな波に飲み込まれずに進む事が出来るとするなら、多様なお客様に可愛がっていただくこと、私自身があきらめないこと、この2つが大切だと思っています。父が、母と共に、道なき道を切り開き、私たち兄弟を育て、そして私に託してくれた商売ですので、どうしても次の世代に引き継ぎたいと思っています。幸い、大学の経営学部にいる長男も、今は建築の専門学校にも通い、後をやろうという気持ちになっています。これは私より、私の父に可愛がってもらったこともあると思います。今、あらためて父に感謝しています。

(週報担当:伊丹秀之)